

第2回 高田地区中心市街地活性化協議会準備会 議事要旨

日時：平成20年1月21日(月) 13:30～14:45

場所：上越商工会議所3階大会議室

出席者：別紙名簿参照(出席者32名(代理3名)、服部氏、市担当職員6名、会議所担当者5名)

議事要旨

1. 会頭あいさつ

2. 協議会会長あいさつ

3. 協議会規約の一部改正について

資料を基に説明

第3章役員第16条事務局の記載において、株式会社まちづくり上越を加えることを説明。承認された。

これに伴い、1月21日付けで、改正をする旨、附則で追記することも了承された。

4. 検討内容及び意見交換

上越市高田地区中心市街地活性化基本計画(案)の説明

上越市中心市街地活性化推進室：折橋室長から、資料(「二つの中心市街地」「高田地区中心市街地活性化のための基本方針」)に基づき説明。

上越市高田地区中心市街地活性化基本計画(案)の主な事業の取り組み状況について報告

上越商工会議所：渡部次長から、資料(「上越市中心市街地活性化事業進捗状況」)に基づき説明。

高田地区について意見交換(：委員、：上越市担当者、：服部アドバイザー)

通行量について、現状数値を示しているが、年代別で分析しているのか？

年代別には統計をとっていない。平日と休日で分けて通行量を把握している。平日の方が多いため、高校生が利用する割合が多いと考えている。

駐車場がどこにあるか分かりにくい。整備の予定はあるのか？

駐車場を考える必要があるが、民間事業者で検討していく事業と認識している。

内閣府の指針を見ると、最初に公共交通施策が掲載してある。当市の計画の内容は希薄なのではないか？

交流人口対策で、大型バス駐車場や出迎える入り口として、アクセス等の事業について、基本計画へ明確に載せてもらいたい。

実施可能な事業があれば、将来構想を含めて載せたいと思うが、現状は実行可能な部分で掲載している。

居住人口増加について、街中に住むように再開発ビルや民間マンションの事業は意義深いだが、現実として、スーパーマーケットがないので住みづらい。

事業計画が出てきた段階で掲載したい。

北陸新幹線新駅からのシャトルバスは必要ではないか？

担当課と検討し、掲載できる事業があれば、掲載したい。

数値目標の内容は、提示程度で良いのか？また、根拠は？

委員の意見を聞きながら、精査していきたいと考えている。

金沢は、イベントを全部受け入れるために、いろいろと努力をしている。交流人口を増やすためにどのような努力をしていくのか？

現実的には難しいと思うが、現状対応できる部分で検討していきたい。例えば、いつも大型バスの駐車場が満車であれば、シャトルバスを運行できるが、投資効果を考えると難しい。投資費用を抑えることを考え、道路を半分止め、駐車場にするなどの民間からの知恵をお借りしたい。

お客様から、土産品を一箇所で購入する場所が、街中にないという要望が多い。商店街で対応できないか？

利便性向上の視点で、場所や規模を考慮して、検討していきたい。

いくつかの要望が出たが、まずは地域の行動が重要ではないか？実行可能なところから取り組んでもらいたい。

基本方針で、上越南警察署跡地活用では、銀行が活用すると新聞に載っていた。通行の流れができるため、本町のイメージと合うようなアーケードを延伸してもらいたい。

アーケードの計画はない。費用が多額になるため、すぐに取り組める事業ではない。本町は、近代化資金を活用して、アーケードを作った。地元の負担の中で、行う事業の意味合いが強い。

近代化資金は、中活の認定を受けると、受けられやすくなるのか？

将来的に取り組むことを考えているのであれば、検討事業として掲載しても良い。行政が取り組める時に、実施計画に昇格させれば良い。

銀行としても、地域の活動に協力していきたいという意向はある。本部に伝える。商店街の検討会で、図書館、病院、文化施設、スーパーマーケットが欲しいという意見がまとまった。また、学生が多いので学生が集える場所や、中高年が活動できる場所ができれば、街の利便性が高まる。このようなことを中心に、まちづくりを進めてもらいたい。

住んでいる人が、どうすれば幸せに暮らすことができるかを突き詰めていくことが重要である。元々、街中にあったものを、どうやって元に戻していくか。昔あった街の形に戻していくことが目標。市への要望は要望として早く出し、早くまとめて、国にすぐに認定をもらえるように努力をしてもらいたい。

このまま何もしなければ、住みにくい街になってしまう。高田には、住民が気軽に行ける場所がない。コミュニティセンターや予備校空きビルに図書館の分室を作ってもらいたい。道路を作る計画があるが、その先に何をするのかを考えてもらいたい。

有料駐車場を使って、買い物に行きたいとは思わない。郊外の住民が気軽に街に行けるような格安バスを運行したらどうか？ポイントカードを税金やバス代に利用できるという街もある。そのような工夫も含め、商店街は自らどうするかを考え、工夫してもらいたい。

商店街の中に、駐車場を作れる可能性がある土地があれば、市の協力をもらいながら進めてもらいたい。

目標数値が小さい。このような小さい目標で国から認可をもらえるのか？大きな目標を掲げた方が良いのではないか？

国からは、数値の根拠を求められており、提示した数値は、事業の積み上げによ

って算出した目標数値である。民間から事業を更に出してもらえれば、更に積み上げていきたい。

地域に住む人たちに利便性を与え、訪れる人々に魅力を感じてもらうことを目的に、地域の人たちがどのように取り組むかが、中心市街地活性化基本計画を推進していく。一つの幹に枝をつけ、中小の木をつなげ、森にしていくことが、中心市街地活性化の戦略的考え方である。

二つの中心市街地の役割分担を明確にし、更に連携を図っていかなければならない。

選ばれた計画には責任が生じる。提案した事業は、必ず実行しなければならない。

目標数値は、放っておけばマイナスになるので、0ベースでも大変な目標。

計画が認定されたところは、協議会に市長や副市長が1~2回は出席している。また、市民が行動をおこし、更に市民の意見を幅広く聞いているところであり、国はこれらを重視している。市の縦割りでは、何も進まない。プロジェクトで動き、会議所等と連携をしていくこと。

協議会会長より、服部アドバイザーの言葉に集約される。地域が実行していかなければ、まちづくりは長続きしない。今後ともご協力をいただきたい旨が伝えられ、議事を終了した。